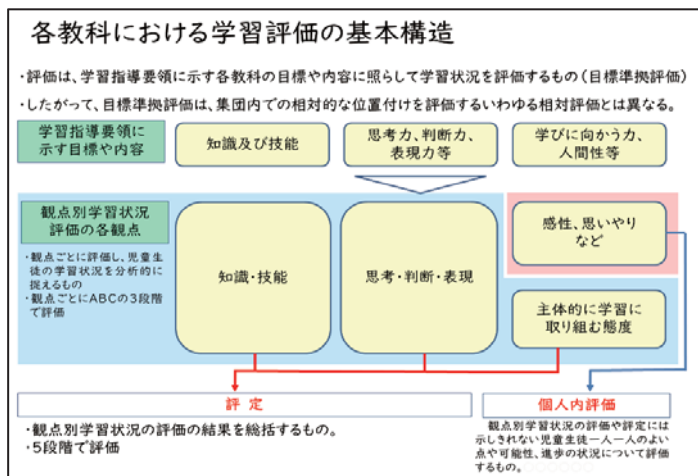


学習評価の基本的な考え方と参考資料の紹介

学習評価とは、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。学習評価の目的は、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることです。そのためには、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。



★★★★★ 学習評価を充実させるための参考資料を紹介します ★★★★★

【基本編】学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)

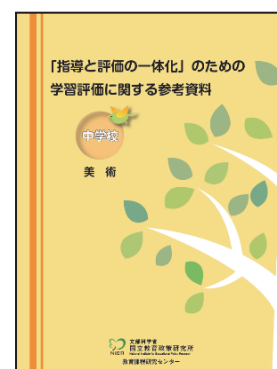
- ・学習評価の基本的な考え方
- ・学習評価の基本構造
- ・特別の教科 道徳, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
- ・観点別学習状況の評価について
- ・学習評価の充実
- ・Q&A -先生方の質問にお答えします-



【応用編】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

- ・総説(学習指導要領改訂の方針, 学習評価の基本的な考え方等)
- ・学習指導要領の規定から評価規準を作成する際の手順
- ・学習評価に関する事例

学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等について解説しているほか、各教科等別に単元や題材に基づく学習評価について事例を紹介しています。



上記2つの参考資料は、国立教育政策研究所のWebサイトで閲覧及びダウンロードが可能です。右側のQRコードからもアクセスできますので、ぜひ一度、ご覧ください。
(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryoku.html>)



学習評価についてのQ & A

Q1. 「主体的に学習に取り組む態度」はどのように評価をすればよいですか。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向のみを評価するということではありません。各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価することが重要です。

従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。



Q2. 評価の信頼性や妥当性を高めていくためには、何が大切ですか。



学習評価の信頼性や妥当性を高めていくためには、評価規準を適切に設定し、評価の方針について、生徒や保護者と共通理解を図ることが重要です。そのためには、評価の時期や方法について、事前に生徒にも説明しておくことが大切です。そうした取組を続けていくことで、教師の指導改善や生徒の学習改善にもつながります。

ペーパーテストなどの内容についても、その問題がその各観点の資質・能力を問う問題として妥当かどうかを、再度検討する必要があります。そのためには、校内研究会等で、定期テストについての情報共有や意見交換をしていくことが大切です。

Q3. 評定への総括は、どのように進めればよいですか。

評定は、各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものです。A, B, Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろえば、「BBB」であれば3を基本としつつ、「AAA」であれば5又は4、「CCC」であれば2又は1とするのが適切であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定することができるようあらかじめ各学校において決めておく必要があります。

なお、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

